

水道需要見直し示唆

猪瀬副知事

都議会一般質問の「過大見積もり」批判で 水道局長は否定

都議会第一回定例会の一般質問が二十七日行われ、十二人の議員が都政や地域の課題について質問した。このうち、都の負担金などで国が建設中の八ッ場ダム(群馬県)について花輪智史氏(民主)が、計画の前提となる都の水道需要予測を「過大見積もり」と批判、見直しを求めた。答弁で東岡創示水道局長は見直しの必要性を明確に否定したが、猪瀬副知事は公共事業を再評価していくことは大事と答へ、食の需見直しを求めた。

花輪氏は、都の水道需要について「一九七八年の一日最大排出量六百四十五万リットルに減少を求めた。答弁で東岡創示水道局長は見直しの必要性を明確に否定したが、猪瀬副知事は公共事業を再評価していくことは大事と答へ、食の需見直しを求めた。

猪瀬副知事は「道路公団民営化で天下りもだいぶ減り、無駄な投資が減った。質のいいもの、安く丈夫なものが必要」と述べたうえで、「国の公共事業を見ていく場合、事業の再評価を常に正確なデータに基づいてやる必要がある」と強調した。



毎日新聞

◆公共事業のあり方

花輪智史議員(民主)は、都の水源などとして建設中の八ッ場ダム(群馬県)の基本計画変更をただした。「最新のデータでダムの必要性を議論すべきだ」との考え方を基に、「時代や

社会がどんなに変わろうと公共事業を継続しようとする国のやり方について、道路公団改革の経験を踏まえた所見を」と猪瀬副知事に答弁を求めた。

猪瀬副知事は「道路公団民営化で天下りもだいぶ減り、無駄な投資が減った。質のいいもの、安く丈夫なものが必要」と述べたうえで、「国の公共事業を見ていく場合、事業の再評価を常に正確なデータに基づいてやる必要がある」と強調した。